

1. 教員および授業の概要

①教員名：石田 徹 (ISHIDA Toru)

②担当科目：博士前期課程 北東アジア専門講義 17 (北東アジア近現代史)、北東アジア研究指導 I～IV
博士後期課程 北東アジア超域研究指導 I・II、特別研究活動

③教員のプロフィール

- ・早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学
- ・博士(政治学)(早稲田大学)
- ・早稲田大学政治経済学部助手、国立公文書館アジア歴史資料センター調査員、早稲田大学政治経済学術院助教、島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手などを経て現職。
- ・専門：日朝関係史(政治・外交・思想)、日本政治史

④所属学会

東アジア近代史学会、歴史科学評議会、日本歴史学会、日本政治学会、政治思想学会、日本国際政治学会、朝鮮史研究会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・19世紀を中心とする日朝関係史。近年は特に対馬を中心に考察している。
- ・前近代の(北)東アジア在来の国際秩序の実相の把握と、それがその後どのように変容していったのかについての研究。
- ・「日本側の朝鮮観と朝鮮側の日本観」などの対外観研究(なお、朝鮮に限らず、日本側の中国観と中国側の日本観も視野に入れている)。

⑥研究指導方針

基本的には、北東アジア諸国における政治史・外交史を中心に、主に文献史料の読解・分析を通じた研究を行う。具体的な研究テーマについては学生本人の希望・自主性を尊重するが、歴史的アプローチを採る以上、史料の存在が不可欠となるので、「史料が無い・入手出来ない」というテーマの場合は再考を求めることになる。下調べを十分にしておいてほしい。併せて、研究テーマについては、それが現代社会に持つ意義・意味について常に意識するよう心がけてほしい。

⑦指導可能な研究テーマ(あるいは過去(現在)に指導した研究テーマ)

- ・日本政治史・日本／韓国政治思想史に関する研究
- ・近代移行期における(北)東アジアの国際秩序に関する研究

- ・ 19 世紀末までの日朝関係史に関する研究
- ・ その後の植民地統治期に関する研究

2. 研究業績リスト (出版年降順)

①著書

- (1) (共著) 佐藤壮・江口伸吾編『変動期の国際秩序とグローバル・アクター中国』国際書院、2018年、第8章「近代日本外交における『学習』をめぐる」 pp.185-199。
- (2) (翻訳) 朴忠錫著、飯田泰三監修、石田徹・井上厚史共訳『韓国政治思想史』法政大学出版社、2016年。
- (3) (翻訳) 金日宇・文素然著、井上治監訳、石田徹・木下順子共訳『韓国・済州島と遊牧騎馬文化』明石書店、2015年。
- (4) (単著)『近代移行期の日朝関係』溪水社、2013年。
- (5) (共著) 飯田泰三・李曉東編『転形期における中国と日本』国際書院、2012年、第8章「華夷秩序をめぐる」 pp.235-261。

②論文

- (1) 「中高歴史教科書における『朝鮮通信使』表記と『信＝よしみ』説について」『訳官使・通信使とその周辺』(科研費成果報告書) 1号、2020年、pp. 3-49。
- (2) 「対馬から考える『北東アジアにおける近代的空間』」『北東アジア研究』別冊5号、2019年、pp. 99-125。
- (3) 「対馬藩における訳官使接遇の諸様相」『歴史の理論と教育』152号、2019年。
- (4) 「近世対馬における異国船来着とその対応」『北東アジア研究』別冊4号、2018年。
- (5) 「対馬藩における帰属意識と日朝関係認識」明治学院大学国際学部附属研究所『研究所年報』No.13、2010年、pp.10-16。
- (6) 「明治初期外務省の朝鮮政策と朝鮮観」『早稲田政治経済学雑誌』第364号、2006年、pp.65～82。
- (7) (書評) 「『清韓宗属関係』と『西洋近代国際関係』——岡本隆司著『属国と自主のあいだ』を読む」『政治思想学会会報』第20号、2005年、pp.11～15。
- (8) 「明治初期日朝交渉における書契の問題」『早稲田政治経済学雑誌』第356号、2004年、pp.102～118。
- (9) 「『非征韓論』再考」『早稲田政治公法研究』第66号、2001年4月、pp.127～153頁(学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』2001年版近現代分冊2に収録)。
- (10) 「征韓論再考」『早稲田政治公法研究』第65号、2000年12月、pp.267～296。

3. 学生に対するメッセージ

現在の日本では、大学や研究者がいろいろな面で厳しい状況に置かれています。そのような中で大学院に進学する(あるいは博士後期課程に進学する)ということは、覚悟がなければ容易に出来ることではありません。まずは皆さんがその覚悟を持ったということに

敬意を表します。険しい道のりになるでしょうが、ともに歩みましょう。

大学院は、皆さんが抱えている知的好奇心・探究心を満たすことができる時間と場所を与えてくれます。その時間と場所を存分に活用してください。しかし、知的好奇心や探究心を満たす上で最も大切なことは「自主性」です。テーマ次第では、私よりも皆さんの方が詳しいということが当然あり得るのです。何もせず、ただ「教わる」ことだけに集中していたならば、おそらく知的好奇心・探究心は満たされず、中途半端に終わってしまうでしょう。そもそも大学院は「教わる」だけの場ではありません。ぜひとも自ら進んで、そして食欲に様々な知識を広く・深く蓄えていってください。そして新たな知恵を生んでください。